

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	グッドスマイル		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 20日		令和8年 2月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	4
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 20日		令和8年 2月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動内容に応じた専門的スタッフの配置	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容や子どもの発達段階に応じて専門性のあるスタッフを配置し、専門的な助言を取り入れながら支援を行っている。 身体を動かす活動や集団での関わりを通して動面だけでなく、集団に慣れる経験や基本的な社会性の育ちにつながっている。 	今後も専門的知見を活かした支援を継続し、職員間での共有や振り返りを行いながら、活動内容および支援の質の維持・向上に努めていく。
2	児童・保護者のニーズを踏まえた個別支援計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達状況や特性、生活面での課題について複数の視点から整理し、AI分析も参考にしながら支援内容を検討している。 複数職員で話し合いを行った上で個別支援計画を作成し保護者へ丁寧に内容を共有している。 	集団での活動を基本としつつ、職員間および保護者との情報共有を丁寧に行い、子ども一人ひとりの発達段階や状態に応じた関わり方や参加方法を見直しながら、安心して活動に参加できる支援体制の充実を図っていく。
3	個別対応と集団活動のバランス	<ul style="list-style-type: none"> 集団での活動を基本としながら、子どもの発達状況やその日の状態を踏まえ、関わり方や参加の仕方を調整しながら支援している。 そのままの参加が難しい場合でも、見学や短時間の参加などを取り入れ、集団の場に無理なく慣れていけるよう関わっている。 	集団活動を基本としつつ、子どもの状態に応じた関わり方や参加の段階を整理し、職員間で共通理解を図りながら、安心して集団の中で過ごせる環境づくりと、活動への参加につながる支援を継続していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員それぞれの得意分野が十分に共有されていない	職員ごとの得意分野や経験、専門性について共有する機会が限られており、個々の強みを十分に把握できていないため、支援内容や役割分担に活かしきれていない状況がある。	職員一人ひとりの得意分野や経験を共有する場を設け、日々の支援やケース検討の中で専門性を意識した役割分担を行うことで、チーム全体で支援の質の向上につなげていく。
2	事業所の支援の特色が分かりにくい	日々の支援の中で行っている工夫や意図について十分に整理・発信できておらず、事業所としての支援の特色が地域に伝わりにくい状況がある。	支援内容や関わり方を振り返りながら整理し、職員間で共通理解を図るとともに、地域に向けた情報発信の機会や方法を工夫し、事業所の支援の特色が伝わる取組を進めていく。
3			